

国語科学習指導案（4年〇組）

平成26年10月9日～20日 4年〇組教室 指導者

1 単元名 事実と意見を捉え、考えをまとめよう

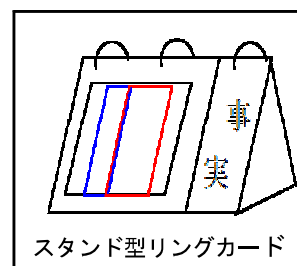
一事例に注目しながら読み、筆者の考えを捉えるー 教材名「点字を通して考える」ほか

2 考察

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領第3学年及び第4学年「C読むこと」の「イ 目的に応じて、中心となる語や文を捉えて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え文章を読むこと」「エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること」「オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと」を受けて設定するものである。

本単元を貫く言語活動として「スタンド型リングカードを使って、筆者の考えと自分の考えをまとめ、紹介する」活動を設定した。これは、言語活動例「ウ 記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと」を受けたものである。スタンド型リングカードには、見出し・事実・筆者の意見・自分の考えを記入する部分を位置付け、1枚のカードに一つの意味段落の内容をまとめていく。その際、事実について引用、要約した文章は赤い用紙に、筆者の意見については青い用紙に記述しカードに貼る。これにより、段落内の事実と意見を主体的に読み分けていくことができるようにする。また、スタンド型リングカードの台紙の端に、事実と意見のカードを別に設置する。段落ごとにまとめたカードが、事実か意見かを判別しながらめくることにより、筆者と自分の意見を紹介するだけでなく、事例として挙げられている様々な事実が、筆者の意見の根拠となるという段落相互の関係を捉えられるようにする。こうした活動を取り入れることにより、本単元のねらいを達成できると考える。さらに、事実と意見の関係が、前単元で学習した、事例とまとめの関係と近いことにも気付くことができるであろう。



本教材は、話題提示→事例→まとめという文章構成になっている。「文字は欠かせないもの」という話題提示から、四つの事例を挙げて点字のできるまでを説明し、事例のまとめとして、点字が現在も進化し続けていることを述べている。まとめでは「ユニバーサルデザインという考え方」を取り上げ、全ての人が暮らしやすい社会を作るためには、障害について正しく理解することが必要であると主張し、「自分とはちがう立場の人のことを考えられる力こそ、『本当のやさしさ』といえるのではないかと」とまとめている。四つの事例は歴史的事実であるため、事実として捉えやすく、主張部分の文末表現は、「～知ってほしいと思います。」「～できるのです。」「～と考えてみてください。」「～といえるのではないかと思います。」となっており、意見として捉えやすい。また、事実を基に主張を述べるというシンプルな構成になっているため、初めて、事実と意見を捉える学習をする児童にとって適した教材となっている。中心となる語句や文を見付けたり、表にまとめたりするなど、既習事項を活用することによって、要点をまとめる力を高めしていくこともできる。

課題把握の過程では、本単元で身に付ける力を児童に自覚させるために、評価規準を指導者と共有する。単元のゴールを明らかにした上で、主教材を基に、一斉指導の中でスタンド型リングカードを作成する。

課題追究の過程では、身に付いた力を活用し、自分の力で、スタンド型リングカードを作成する。そのために、副教材として、二つの文章を用意した。共に児童にとっては初見の文章である。また、事例とまとめが分かりやすく書かれているため、児童が自分の力で、事実と意見を捉えることに適していると考えられる。一方は、事例が三つの短い文章で、他方は、事例が六つの長い文章である。児童が

自分で選ぶことにより、無理なく取り組めるようにする。

なお、副教材を読む際には、『「入れ子構造」モデル』や『A B ワンセット方式』を取り入れ、主教材の学びを即座に、副教材の読みに生かすことができるようにする。そのため、課題把握の過程と課題追究の過程が並行して進む形になる。

まとめの過程では、身に付いた力を、次の読みに活用できる力として自覚するために、振り返りの活動を取り入れる。

このような学習を通して、事実と意見を整理しながら要点をまとめ、段落相互の関係を捉える力を身に付けさせることができると考える。

3 研究との関わり

本単元では、課題把握の過程で、評価規準である「できたねポイント」を指導者と児童が共に作成し、活用することによって、児童が身に付ける力を自覚し、目的意識を持って学習に取り組むことができたかを検証する。このとき、初出の指導事項であれば新規に「できたねポイント」を作成し、既習の指導事項であれば、既にある「できたねポイント」に加筆していくことにより、発達段階に応じた評価規準を複数年度に渡って形式的に作り上げていくことができる。

また、課題追究の過程では、主教材を読む活動を通して作成した「できたねポイント」や、既習事項である「できたねポイント」を用いて、副教材を読む活動を行う。これにより、身に付いた力を、「できたねポイント」を通して可視化させながら、次の読みに活用させることができる。

さらに、まとめの過程では、「できたねポイント」を基に学習の振り返りを行う。主教材を読む際に用いた「できたねポイント」のポイント欄に印を付けて評価するだけでなく、副教材を読む際に、児童が主体的に用いた「できたねポイント」のポイント欄にも印を付ける。こうした活動を繰り返すことで、児童は、既習事項を活用するようになると考える。

このように、各過程で「できたねポイント」を用いた本単元構想及び「できたねポイント」が、研究テーマである「説明的な文章における読む力を高め」ていくことに有効であるかを、本実践を通して明らかにしていく。これは、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた、群馬県の国語科の課題である「目的や意図に応じて説明的な文章の内容を読み取ること」の改善にもつながると考える。

4 単元の目標

事実と意見を整理しながら事例に注目して読み、筆者の意見について、自分の意見をまとめ、紹介することができる。

5 指導計画（全9時間予定）

評価規準	国語への 関心・意欲・態度	段落相互の関係を考えながら説明的な文章を読み、読んだ感想を交流し、互いの感じ方を認め合おうとしている。		
	読む能力	筆者の意見と自分の意見を紹介するために、事例や中心となる語句、文を捉え、事実と意見との関係などを考えて文章を読んでいる。		
	言語についての 知識・理解・技能	事実と意見を整理するために文末表現に気を付けたり、段落相互の関係を捉えるために指示語や接続語に気を付けたりして文章を読んでいる。		
時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい知識等	思考力・表現力等	
第1時 ）	課題	○語句の意味の理解 ○文章構成の知識	○文章の内容を大まかにつかむ力	○主教材を読み、本単元における学習計画を知る。

第8時	把握・課題追究（入れ子構造・A B ワンセット方式）	<p>（はじめ・中・終わり）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○形式段落の主旨の知識 ○中心となる語句や文題の知識（繰り返し・題名・まとめ など） ○引用・要約の知識 ○接続語、指示語の知識 ○文末表現に関する知識 ○事例の知識 ○事例とまとめの関係に関する知識 ○表にまとめる知識 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章の構成をつかむ力 ○話題提示の段落を捉える力 ○要点をまとめる力 ○事実と意見を読み分ける力 ○事実と意見の関係を捉える力 	<ul style="list-style-type: none"> ○文章を通読し、全文を三つのまとまりに分け、見出しを付ける。 ○スタンド型リングカードにまとめるために、事実と意見を整理しながら文章を読む。 ・「はじめ」を読み、文字は大切だという筆者の意見を読み取る。 ・「中」の③～⑧段落を読み、それぞれの点字の良い点・悪い点を読み取り、表にまとめる。 ・「中」の⑨～⑪段落を読み、日本の点字ができるまでと「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取る。 ・「終わり」を読み、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見を読み取る。 ○筆者の主張を読み取り、それに対する自分の意見をまとめる。 ○スタンド型リングカードで紹介しながら、段落間における事実と意見の関係を考える。 ○副教材で適用し、身に付いた力を一般化する。 <p>（「入れ子」構造・「A B ワンセット方式」）</p>
第9時	まとめ	○発表・交流の知識	○感じ方の違いに気付く力	○友達と交流し、感じ方の違いに気付く。

6 本時の展開（1 / 9）

- (1) **ねらい** ・ 「できたねポイント」を用いて、本単元で身に付ける力を知り、学習の見通しを持つことができる。
- ・ 文章の組み立てを大まかに「はじめ・中・終わり」で捉えることができる。
- (2) **準備** 全文シート・「できたねポイント」（「事例」・「事実」・「意見」・「話題提示」）
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 （◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価）
1 「点字を通して考える」で学習することを知り、学習の見通しを持つ。	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 興味を喚起するために、点字について知っていること、点字を通して何を考えるのか問い掛ける。
<p>【学習課題】 「点字を通して考える」で学習することを知り、計画を立てよう。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 「事実と意見を捉え、考えをまとめよう」「事例に注目しながら読み、筆者の考えを捉えよう」という、本単元の学習課題を知る。 ○ 前単元の学習を想起し、事例につ 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「本単元で何を学ぶのか」を意識できるように、単元のねらいをカードに書き、毎時間、掲示する。 ◎ 事例について忘れていた児童には「できたねポイント」で確認するよう助言する。確認後、既習事項活用の意識付けのため、全員に主教材名を記入する

いて確認する。

- 事例の内容は事実や観察だった。
- 答えを詳しく説明していた。
- 説得力が増した。

○ スタンド型リングカードのモデル作品を見て、学習への意欲を高めるとともに、到達点を知る。

- スタンド型リングカードを上手に作ってみたい。

- どうやったら作れるのかな。

○ スタンド型リングカードの作り方を知る。

○ 「できたねポイント」で事実と意見について理解する。

〈事実〉

- 本当のこと
- 本当にあったこと

- ～です。
- ～だ。

〈意見〉

- 考え
- 思ったこと

- ～だと思います。

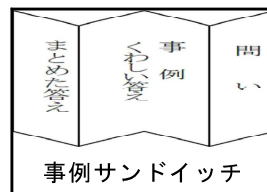
- このように

○ 学習計画表を見て流れを確認する。

- こんな流れで学習するんだな。
- スタンド型リングカードを二つ作るんだな。
- 二つ目はできるだけ自分の力で作りたいな。
- 事実と意見を読み分けられるようになりたいな。
- 事実と意見はどんな関係かな。

よう指示する。

- 事例とまとめという段落相互の関係や「このように」というまとめのつなぎ言葉を想起できるように、前単元で用いた教材文「ミラクルミルク」の事例サンドイッチを提示する。



- 事実と意見が事例とまとめと同じように表れる構成を捉えることができるように、段落ごとにまとめたカードをめくりながら、事実と意見を判別するスタンド型リングカードづくりを設定する。
- 前単元の学習を活用することができるように、事例サンドイッチと同じ教材文「ミラクルミルク」で作成したスタンド型リングカードのモデル作品を提示する。
- 事実の要点を赤い紙に、筆者の意見の要点を青い紙に書くことから、事実と意見の読み分けが必要なことを伝える。
- 「できたねポイント」で一方向的に知識を伝えることにならないように、事実や意見について、児童の発言を取り上げるようにする。その上で、以下のことを確認する。

- 事実とは…
実際に行ったこと・現実の出来事・自分が直接経験したことなど。
〔過去の出来事は、児童が、学習の中で気付けるように、この段階では触れないようにする。〕
- 事実を見付けるときに着目すること
文末表現（～です。～なのです。など）
- 意見とは…
事実についての筆者の考え
- 意見を見付けるときに着目すること
文末表現（～と考えます。～と思うのです。など）
つなぎ言葉（このように・だから など）

- 確認後、「できたねポイント」に主教材名を記入するよう指示する。
- 学習の流れが一目で分かるように、学習計画表を提示する。
- 学習したことをしっかり身に付けられるように、『「入れ子」構造』や『A B ワンセット方式』を取り入れながら、副教材のスタンド型リングカードを作成することを伝える。
- めあてを持って学習に取り組むことができるよう

		に、自分のめあてを簡潔に書く場を設ける。 ◇ 事実と意見を読み分けてスタンド型リングカードを作ることを理解し、自分のめあてを考えている。(観察・学習計画表)【関・意・態】
2 文章の組み立てを捉える。 ○ 形式段落に番号を付ける。 ○ 範読を聞きながら、新出漢字や意味の分からない語句について確認する。 ○ 全体を三つのまとまりに分け、まとまりごとに見出しを付ける。 ・ 三つのまとまりに分ける。 ・ 話題提示の段落について知る。 ・ 形式段落ごとに主語や中心となる語句を見付ける。 ・ 中心となる語句を基に見出しを付ける。	14分	・ 文章の構成を視覚的に捉えることができるように全文シートを用いる。 ・ 今後の学習で、サイドラインを引いた箇所などを口頭で説明しやすいように、形式段落に番号を付けるよう指示する。 ◎ 段落分けの視点を持つことができるように、範読前に、「はじめ・中・終わり」の各部分に書かれる事柄などについて既習事項を確認する。 ・ はじめ……問い・事例 ・ 中……説明・詳しい答え・事例 ・ 終わり……まとめた答え・伝えたいこと ・ それぞれのまとまりは同じ事柄について書かれている。 ・ 問い掛けの文章や1行空きの箇所から三つのまとまりに分けたことを確認する。 ・ 問い掛けの後にすぐ答えがあることから、全体にかかる問いではなく、話題提示の文であることを説明し、「できたねポイント」で確認する。 ◎ 形式段落の主語や繰り返し出てくる言葉に着目するよう助言する。 ◇ 文章の組み立てを「はじめ・中・終わり」で捉えている。(全文シート)【読む能力】
<ul style="list-style-type: none"> 文字のことが書いてある。 点字のことが書いてある。 外国の点字と日本の点字 点字ができるまで ユニバーサルデザイン 		
3 学習のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。	1分	・ 児童の意欲を高めるために、次時は「はじめ」の部分のカードを作成することを伝える。
4 副教材で適用する。	10分	◎ 文章の組み立てを捉えることに、時間を要する児童には、問いの文や「このように」に着目するよう、机間支援の中で個別に伝える。

7 板書計画

<div style="display: flex; justify-content: space-around; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ユニバーサルデザイン</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">点字の歴史</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文字</div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">本文記載</p> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">全文シート</p>	<p>○ 全文を三つに分けよう。 はじめ……問い・事例・話題でい示 中……説明・くわしい答え・事例 終わり……まとめた答え・伝えたいこと ※まとまり↓同じことについて書かれている 👁️ 形式段落の主語 キーワード↓くり返し出てくる</p>	<p>「点字を通して考える」 「事実と意見をとらえ、考えをまとめよう」 事例に注目しながら読み、 筆者の考えをとらえよう スタンド型リングカードで 筆者の意見と自分の意見を しようかいしよう</p>
--	---	---

6 本時の展開（2／9）

- (1) **ねらい** 「はじめ」の部分を読み、文字は大切だという筆者の意見を読み取ることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタンド型リングカードの作り方を想起できるようにモデル作品で確認する。
<p>【学習課題】 「はじめ」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p>		
<p>2 「はじめ」の部分を読んで、スタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見出しを書く。 ○ 事実と意見が書かれているところを見付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ どれも筆者の意見みたいだな。 ・ 「文字は欠かせないもの」は、事実でもあるけど、作者の強い思いを感じるな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 筆者の意見を要約して青い用紙に書く。 ○ 筆者の意見に対する自分の意見を白い用紙に書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆者の意見に賛成だな。 ・ 本や新聞を読むときに文字がないと困るね。 ・ 看板・標識・手紙・メールなど </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ カードに貼る。 	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に学習した事実と意見を読み分けるための、論理構造を読む視点を「できたねポイント」で確認する。 ・ 事実と意見を視覚的に捉えるために、事実は赤、意見は青のサイドラインを、全文シートに引くよう指示する。 ◎ 事実なのか意見なのかを判断するために、以下のことに着目するよう助言する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文末表現「～かもしれません。」……不確か ・ 文末表現「なのです。」……強く言い切る言い方 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 要約に時間を要する児童には「できたねポイント9：要点」を示したり、以下の手順を示したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ①②段落のどちらが筆者の伝えたいことか。 ・ ②段落の前後半のどちらが筆者の伝えたいことか。 ・ ②後半の文中にある「そういう」は何を指しているか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の意見を書き出せずにいる児童には、まず、文字は大切と思うか思わないかを書き、次に、なぜ、そう思うかを書く頭括型の文型を示すようにする。 ・ 学習したことを活用しながら副教材に取り組むことができるように、主教材については全体での確認をしっかりと行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、「文字は大切だ」とい筆者の意見を読み取り、スタンド型リングカードにまとめている。(カード)【読む能力】</p> </div>
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文末表現「～かもしれません。」→意見 ・ 事実とは……確かめることができること。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、「中」の部分のカードを作成することを伝える。
4 副教材で適用する。	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。 ◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で論理構造を読む視点を個別に伝える。

7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> 欠かせない文字 </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: center;"> </div> <div style="text-align: center;"> </div> </div> <p style="text-align: center;">全文シート：「はじめ」</p>	<p>○ 「はじめ」の部分をもとめよう。 事実・・・赤いサイドライン 意見・・・青いサイドライン</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 「点字を通して考える」 事実と意見をとらえ、考えをまとめよう 事例に注目しながら読み、 筆者の考えをとらえよう </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> スタンド型リングカードで 筆者の意見と自分の意見を しようかいしよう </div>
--	--

6 本時の展開（3 / 9）

- (1) **ねらい** 「中」の③～⑧段落を読み、凸字・十二点点字・六点点字の良い点と悪い点を表にまとめることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。 ○ 「中」を二つのまとまりに分ける。 ・ 凸字と十二点点字と六点点字は外国の点字だな。 ・ 日本の点字も出てくるよ。 ・ ブライユとバルビエ、西信八校長と石川倉次が出てくるね。	10分	◎ 二つに分けられずにいる児童には、何について書かれているかを捉えるために、形式段落の主語に着目するよう助言する。 ・ 文章の組み立てを捉えやすくするために、提示用の全文シートで、形式段落の主語や中心となる語句や文に印を付ける。
[学習課題] 「中」の③～⑧段落を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。		
2 「中」の③～⑧段落を読んで、スタンド型リングカードにまとめる。 ○ 事実と意見が書かれているところを見付ける。 ○ 凸字、六点点字、十二点点字が事例であることを捉える。 ・ ブライユは、どうやって点字を作り出したのかな。	30分	・ 事実と意見を視覚的に捉えるために、全文シートに、事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。 ・ 文字の無い不自由さを読み取るために、②と③段落の間に入るつなぎ言葉を問う。 ・ 凸字、六点点字、十二点点字が事例であることを捉えるために、③段落を読んで疑問に思うことを問い掛け、④～⑧段落がその具体的な説明であることを押さえる。 ・ 前単元の学習を想起させることにより、3種類の

<ul style="list-style-type: none"> 表にすると違いが良く分かる。 前に起きた出来事は事実だから赤い用紙でいい。 <p>○ 見出しを書く。</p> <p>○ 凸字、六点点字、十二点点字について表にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 表の項目は何にしたらいいのかな。 <p>○ 筆者の意見があるか確認する。</p> <p>○ 事実に対する意見を白い用紙に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ブライユはすごいな。 それほど、読んだり書いたりしなかったんだな。 点字ができるまで大変だったな。 <p>○ カードに貼る。</p>	<p>点字について、表にまとめると良いことに気付けるようにする。また表のよさを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 三つの事例が事実であることに気付けるように、表は何色の用紙に書けば良いかを発問する。 <p>◎ 「できたねポイント」で既習事項を確認するよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「良い点」「悪い点」という表の項目を捉えるために、「満足できるものではありませんでした。」「欠点がありました」「凸字にくらべてはるかに分かりやすいものでした」という叙述を示す。 学習したことを活用しながら副教材に取り組むことができるように、主教材については全体での確認をしっかりと行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 叙述に基づいて、凸字、十二点点字、六点点字の良い点と悪い点をまとめている。 (カード)【読む能力】</p> </div>
<p>3 学習のまとめをし、次時の学習へ の見通しを持つ。</p>	<p>5分</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> 事実…過去の出来事 </div> <ul style="list-style-type: none"> 次時は、「中」の⑨～⑪段落のカードを作成することを伝える。

7 板書計画

<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">日本の点字</td> <td style="width: 33%; border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">外国の点字ができるまで</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑪ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑧ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑦ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑩ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑥ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑤ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ⑨ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ④ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> <td style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮ </td> </tr> </table> <div style="margin-top: 10px;"> <p>※形式段落の主語や中心となる文に印を付け、いつどこで・誰が・何をしたのかを押さえた。</p> </div>	日本の点字	外国の点字ができるまで		⑪ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑧ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑦ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑩ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑥ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑤ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑨ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	④ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	③ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	<p>○ 「中」の③～⑧段落をまとめよう。</p> <p>事実……赤いサイドライン 意見……青いサイドライン</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「点字を通して考える」 事実と意見をとりえ、考えをまとめよう 事例に注目しながら読み、 筆者の考えをとらえよう</p> <p>スタンド型リングカードで 筆者の意見と自分の意見を しようかいしよう</p> </div>
日本の点字	外国の点字ができるまで												
⑪ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑧ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑦ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮											
⑩ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑥ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	⑤ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮											
⑨ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	④ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮	③ ⋮ 本文記載 ⋮ ⋮											

全文シート：「中」前半

6 本時の展開（4／9）

- (1) **ねらい** 副教材の「中」の部分を読み、事例の要点を表や文章でまとめることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>【学習課題】 副教材の「中」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p> </div>
2 前時の学習を想起する。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時は「点字を通して考える」の「中」の前半部分の事例を表にまとめたことを想起する。
3 副教材で適用する。 ○ 「中」の部分を読んで、事実と意見を見付ける。 ○ どのようにまとめるか考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文章でまとめよう。 ・ 表にまとめよう。 </div> ○ 見出しを書く。 ○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。 ○ 意見をまとめて青い用紙に書く。 ○ 事実に対する意見を白い用紙に書く。 ○ カードに貼る。	35分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実と意見を捉えるために、全文シートに事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。 ・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。 ◎ 事実と意見の読み分けや要約、表の項目づくりに、時間を要する児童には、机間支援の中で着眼点を個別に伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめている。(カード)【読む能力】</p> </div>
4 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、主教材の「中」の後半部分のカードを作成することを伝える。

7 板書計画

- 「中」の部分をもとめよう。
事実・・・赤いサイドライン
意見・・・青いサイドライン
- 文章でまとめる。
・ 表でまとめる。
↓ 事例はいくつあるかな。
項目は何にしようかな。
- 筆者の意見を見付けよう。
- 自分の意見をまとめよう。

「点字を通して考える」
事実と意見をとらえ、考えをまとめよう
 事例に注目しながら読み、
 筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで
 筆者の意見と自分の意見を
 しようかしよう

6 本時の展開 (5/9)

- (1) **ねらい** 「中」の⑨～⑪段落を読み、日本の点字ができるまでと、「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取ることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・用紙 (赤・青・白)・台紙
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
<p>1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。</p> <p>【学習課題】 「中」の⑨～⑪段落を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p>	2分	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。
<p>2 「中」の⑨～⑪段落をスタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 見出しを書く。 ○ 事実が書かれているところを見付ける。 <p>・ 明治とか1890年とか昔のことが書いてある。</p> ○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。 <p>・ 順番にまとめるといい。</p> <p>・ 表にできるかもしれない。</p> ○ 筆者の意見が書かれているところを見付ける。 <p>・ 「～だったのでしょう。」</p> <p>・ 「変えていくのです。」も強い思いを感じるよ。</p> <p>・ 「どの時代も」と同じで、全部の時代を表していると思う。</p> <p>・ 今まで出てきた年代をまとめていると思う。</p> ○ 筆者の意見に対する自分の意見を白い用紙に書く。 <p>・ 筆者は、目の不自由な人たちの気持ちを良く考えていると思う。</p> <p>・ 数字や楽譜だけでなく、パソコンで使う記号も表せるなんて点字を研究している人はすごいと思う。</p> ○ カードに貼る。 	23分	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を捉えるために、全文シートに、事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。 ◎ 事実が書かれているところを見付けられずにいる児童には、「過去の出来事は事実である」ことを想起できるように、「できたねポイント」で確認することを助言する。 ◎ 時間的な順序を追ってまとめることができるように、時間を表す言葉に着目できたところで、どのようまとめたら良いか問い掛ける。 ◎ 意見が書かれているところを見付けられずにいる児童には、文末表現に着目できるように、「できたねポイント」で確認することを助言する。 ・ 事実に対する意見が、事例に対するまとめの関係になっていることに気付くことができるよう、「いつの時代も」という言葉と、これまで出てきた時間を表す言葉との違いを考えるよう発問する。 ・ 筆者の主張する、点字のすばらしさに気付くことができるように、実際の点字 (教科書の資料) に触れる時間を設定する。 <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、日本の点字ができるまでと、「点字を使っている人々の願いが点字を変えていく」という筆者の意見を読み取っている。 (カード) 【読む能力】</p>

3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> 事実に対する意見は、事例に対するまとめの関係と似ている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> 次時は、「終わり」の部分のカードを作成することを伝える。
4 副教材で適用する。	15分	<ul style="list-style-type: none"> 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。 <p>◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で着眼点を個別に伝える。</p>

7 板書計画

日本の点字

⑪	⑩	⑨
本文記載	本文記載	本文記載
本文記載	本文記載	本文記載
本文記載	本文記載	本文記載

※抽象的な時を表す言葉（まとめた表現）に印を付けた。

※具体的な時を表す言葉に印を付けた。

○ 「中」の⑨～⑪段落をまとめよう。

事実・・・赤いサイドライン
意見・・・青いサイドライン

「点字を通して考える」
「事実」と「意見をとらえ、考えをまとめよう」
事例に注目しながら読み、
筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで
筆者の意見と自分の意見を
しようかいしよう

全文シート：「中」前半

6 本時の展開（6／9）

- (1) **ねらい** 「終わり」の部分を読んで、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見について読み取ることができる。
- (2) **準備** 全文シート（3種類）・できたねポイント集・用紙（赤・青・白）・カード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	<ul style="list-style-type: none"> 事実と意見を読み分けるために、「できたねポイント」を用いて、論理構造を読む視点を確認する。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[学習課題] 「終わり」の部分を読んで、事実と意見を整理しながら、スタンド型リングカードにまとめよう。</p> </div>		

<p>2 「終わり」の部分を読んで、スタンド型リングカードにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事実と意見が書かれているところを見付ける。 ○ 見出しを書く。 ○ 事実か意見か迷ったところを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「必要です。」はどっちかな。 ・ 「便利です。」はどっちかな。 ・ 誰がそう思っているのかな。 ・ 人々かな。筆者かな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ⑫⑬段落は事実かな。 ・ ⑭⑮段落は意見かな。 ・ 「～ほしいと思います。」 ・ 「～と考えてみてください。」 ・ 「～と思います。」と書いてある。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事実をまとめて赤い用紙に書く。 ○ 筆者の意見をまとめて青い用紙に書く。 ○ カードに貼る。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事実と意見を捉えるために、全文シートに事実は赤、意見は青のサイドラインを引くか、線で囲むよう指示する。 ・ 事実か意見か迷ったところについて話し合う場を設定し、必ずしも明確に分けられるわけではないことを伝える。 ・ 形式段落で考えたら事実と意見のどちらかを問い掛け、まとめりとして捉えるようにする。 ・ 明らかな事実として「ユニバーサルデザインの考え方」を取り上げ、どんな考え方を赤い用紙にまとめるよう指示する。 ・ 文末表現に着目して、筆者の意見をまとめるよう指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇ 書かれている事柄や文末表現に着目し、事実と意見を整理しながら、「ユニバーサルデザインの考え方」に対する筆者の意見を読み取っている。 (カード)【読む能力】</p> </div>
<p>3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。</p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実と意見と、はっきり分けられないこともある。まとめりとして捉えることも一つの方法。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、文章全体を通して筆者が伝えたかったことを読み取り、それに対する自分の意見をまとめることを伝える。
<p>4 副教材で適用する。</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「できたねポイント」や主教材を参考に自分の力でスタンド型リングカードを作成する。 <p>◎ 事実と意見の読み分けや要約に、時間を要する児童には、机間支援の中で、論理構造を読む視点を個別に伝える。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・ 「本当のやさしさ」だと思う。 ・ 「 」が付いているのは大事だからじゃないかな。 		<p>えたかったことが「点字」でも「ユニバーサルデザインの考え方」でもなかったら何なのかを問う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 要旨に迫るために、題名の「点字を通して考える」は点字を通して何を考えるのか発問する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ ユニバーサルデザイン ・ ぐらしやすく希望の持てる社会 ・ 本当のやさしさ 		<p>◇ これまでまとめてきたカードの記述を基に、筆者の主張を読み取っている。</p> <p>(発言・観察)【読む能力】</p>
<p>3 「本当のやさしさ」に対する自分の意見をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害について正しい理解を持つこと。 ・ 自分とは違う立場の人のことを考えられる力を持つこと。 <p>○ 自分の意見を白い用紙にまとめる。</p> <p>○ カードに貼る。</p>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見を持つことができるように、「本当のやさしさ」について、数人の意見を聞く。 <p>◎ 自分の意見を書き出せずにいる児童には、やり取りの中で、「自分とは違う立場の人」を具体的に設定し、その人にできることを考えるよう伝える。また、書き出し例をいくつか提示する。</p>
<p>4 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。</p>	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、出来上がったスタンド型リングカードを使って紹介することを伝える。
<p>5 副教材で適用する。</p>	15分	<p>◎ 自分の意見を書き出せずにいる児童には、机間支援の中で書き出しを例示する。</p>

7 板書計画

○ 筆者の意見に対する
自分の意見をまとめよう

- ・ 筆者の意見に賛成です。なぜなら・
- ・ 筆者の意見に反対です。なぜなら・
- ・ 筆者のいう「・・・」について
考えてみました。例えば・・・
- ・ 「・・・」について
考えてみました。・・・

○ 筆者が伝えたかったことを読み取ろう。

青い用紙 ←

- ・ ・・・できるまで
- ・ 「・・・」の考え方
- ・ 「・・・」
- ・ = ※文中の言葉で言い換えた
- ・ ・・・

「点字を通して考える」
事実と意見をとらえ、考えをまとめよう
事例に注目しながら読み、
筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで
筆者の意見と自分の意見を
しようかいしよう

6 本時の展開 (8/9)

- (1) **ねらい** 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実が意見の根拠になっていることを捉えることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・作成したカード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	
<p>[学習課題] 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実と意見の関係を考えよう。</p>		
<p>2 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードを使って紹介する。</p> <p>○ これまでまとめてきたカードをリングに通し完成させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっと出来上がった。 ・ うれしいな。 </div> <p>○ 紹介の仕方を練習する。</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要約につながるように、本当に必要なところだけを読むように指示する。また、つなぎ言葉など足りない言葉は付け足してよいことも伝える。 ◎ 筆者の意見である青いカードは読み落とさないように助言する。 ・ 友達の発表のよさを知るために、ペアで聞き合う時間を設ける。
<p>3 事実と意見の段落相互の関係を考える。</p> <p>○ カード端の事実・意見カードの操作の仕方を考える。</p> <p>○ 事実と意見の段落相互の関係について気付いたことを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実が続いた後に意見が来る。 ・ 事実が意見の説明になっている。 ・ 事実が意見の理由になっている。 ・ 事実が意見のもとになっている。 </div>	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 段落相互の関係を捉えることができるように、見えているカードが、主に事実の段落か意見の段落かによって、カードを変えるよう指示する。 ◎ 正しく操作できているかを確認する。 ・ 段落相互の関係について、児童の言葉でまとめるために、気付いたことを発表する場を設ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇ 「点字を通して考える」をスタンド型リングカードで紹介しながら、事実が意見の根拠になっていることを捉えている。</p> <p style="text-align: right;">(発言・観察)【読む能力】</p> </div>
3 学習のまとめをし、次時の学習への見通しを持つ。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項として活用できるように、学習で得た知識を「できたねポイント」に書き加える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事実が意見のもとになっている。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は、副教材のスタンド型リングカードを使って紹介し合うことを伝える。
4 副教材で適用する。	12分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 副教材の事実と意見の関係を捉えているかを確認するためにワークシートを用意する。 ◎ 副教材のスタンド型リングカードの操作の仕方や発表の仕方を確認する。

7 板書計画

「点字を通して考える」
事実と意見をとらえ、考えをまとめよう
 事例に注目しながら読み、
 筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで
 筆者の意見と自分の意見を
 しようかいしよう

○ スタンド型リングカードでしようかいしよう
 ・ 大事などころだけを読もう。
 ただし、
 青い用紙⇨筆者の意見を落とさないように

○ 事実と意見の関係を考えよう。
 ・ カードをそっさししながら気付いたことは・・・
 事実が続いて最後が意見になっている。
 事実が意見の説明になっている。
 事実が意見の理由になっている。
 事実が意見のものになっている。

6 本時の展開 (9/9)

- (1) **ねらい** 副教材をスタンド型リングカードで紹介し、友達と意見交流をすることができる。
- (2) **準備** 全文シート (3種類)・できたねポイント集・作成したカード
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 本時の学習課題をつかみ、学習への見通しを持つ。	2分	
[学習課題] 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し、友達と意見交流をしよう。		
2 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し合う。 ○ 発表練習をする。 ○ 3～4人グループで発表し合う。 ○ 互いに評価し合う。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集中して発表が聞けるように、「こんなところがいいねカード」を用意し、相互評価し合えるようにする。 ・ 互いの感じ方を認め合うことができるように、良かったところを感想として伝えるように声を掛ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇ 自分の選んだ文章をスタンド型リングカードで紹介し、友達の意見に感想を述べている。 (観察・相互評価カード)【読む能力】 </div>
3 本単元の学習を振り返る。 ○ 本単元の学習で分かったことやできるようになったことを「できたねポイント」で振り返る。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身に付いた力を自覚することができるように、「できたねポイント」に書き込んだことを振り返る。 ・ 学習して分かったことを「ふり返り」に記入する。 ・ 達成感を得られるように、頑張りを認める言葉掛けをしながら「できたねポイント」のポイント欄に印を付ける。
4 学習のまとめをする。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 違うグループの作品を見て回る。

「点字を通して考える」

「**事実**と**意見**をとらえ、考えをまとめよう
事例に注目しながら読み、

筆者の考えをとらえよう

スタンド型リングカードで

筆者の意見と自分の意見を

しようかいしよう

- スタンド型リングカードでしようかいしよう
- ・ グループで発表し合う。
- ・ 「こんなところがいいねカード」を書く。
- ・ ほかのグループの作品を見る。